

Title	医療及びその関連市場における新規事業領域創出の可能性について
Sub Title	
Author	及川篤志(Oikawa, Atsushi) 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1329号 その他:「付録資料」は複写不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1329">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1329</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 医療及びその関連市場における新規事業領域創出の可能性について

今日、日本の医療には効率化と質の向上が強く求められているが、これらを同時に実現するには、現在の需給者間における関係を需要者主体の方向へ移行することが必要であり、そのためには医療における情報の非対称性を補完することが有効なソリューションと成り得ると考えられる。本研究は、このような問題意識に立ち、それを実現するための情報フローの改善案とその事業化の可能性を考察することを目的としている。

ここで言う「情報の非対称性」とは、医療経済学が一般に捉えるところの「患者がサービス内容の適切性を判断できず、そのため専門知識を持った医師に委ねざるを得ない状況」だけではなく、個々の患者の病歴・受療歴や治療に対する選好性、価値観といった情報を医師が十分に認識できない状況（患者→医療機関）や医療機関相互のモニタリングや情報処理の共有化が不十分である状況（医療機関↔医療機関）を含んでいる。

こうした「情報の非対称性」を補完するための対応として、第2章、第3章での現状分析結果をもとに「医療における『情報の非対称性』補完のためのフレームワーク」を導出し、これにより効率化と質の向上が実現可能であることを確認した。

続く第4章では、上記のフレームワークをもとに、事例・アンケート・統計資料より抽出された情報ニーズ・フローの整理を行い、現状の問題点の抽出とその分析を行った。この結果から、情報フロー改善のための理想的なイメージとして、2つのモデルシステム（「施設間ネットワーク」、「患者への統合情報提供システム」）を構築した。

最終章では、日米の動向及び2つのモデルシステムをもとに、6つの事業案を抽出し、それらについて私的ビジネスの可能性、経済性、事業実現の難易度等の面から評価を行った。これにより、最終的に、診断にあたっての情報プロセスを共有化し、契約医療機関へ診断情報等の提供を行うことを目的とする「情報処理共有化事業」を事業化にあたっての最適案として導出した。